# 帯と間 ～簡平住宅のコンバージョンによる町民の居場所づくり～

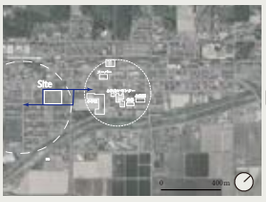
かつて人口の受け皿として北海道に多く供給された簡易耐火構造平屋建て、通称「簡平」は、効率性と経済性を重視した画一的な配置と老朽化によってどこか立ち寄り難い雰囲気を持ち、住宅街に佇み街から孤立してしまっているように感じる。

そこで簡平を新たな公共施設「**カンピラ**」としてコンバージョンすることで地域に開放し、住民の居場所となることを目指す。

公営住宅等長寿命化計画より人口１万人未満の地方は、公営住宅の中の簡平の割合が 37%であり、そのほとんどが耐用年数(30 年)を超え建て替え・解体の時期を迎えている

## 1. 街と簡平から街とカンピラへ ～動線の変化で街の交流を促す～

敷地は北海道中富良野町寿団地を選定する。
中富良野町は駅周辺が街の中心となっており
寿団地はその近くの住宅街に位置している。



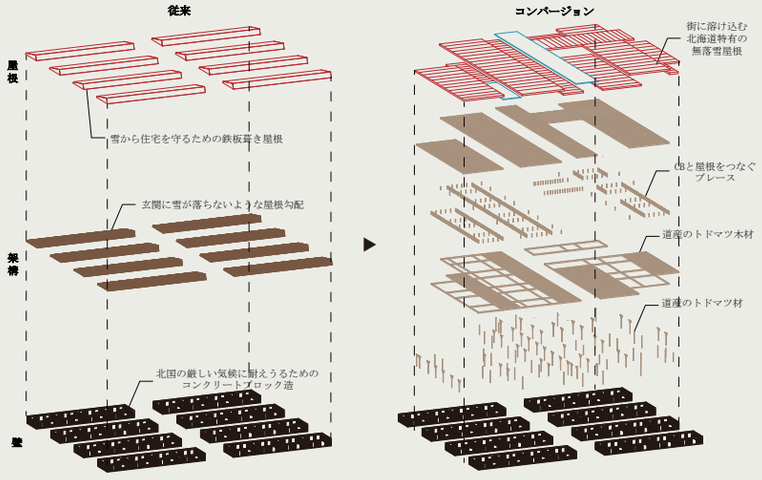

広い敷地が寿団地の住民だけのものになっている
寿団地を避けた動線

寿団地を開放し地域みんなのものにすることで
公園同士をつなぐ新たな動線やカンピラを通る新たな動線を作り
カンピラが街の中心と住宅街の結節点となる

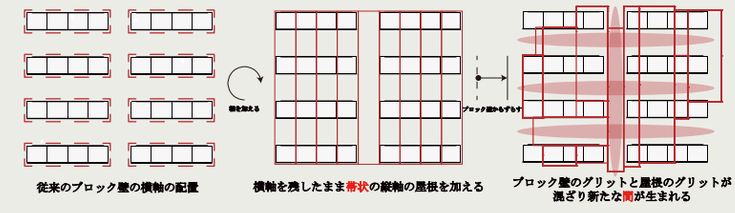
## 2. 設計手法 ～帯と間～

■構造アイソメ

コンクリートブロックはそのまま構造体として利用し、屋根の部分だけを新築することで、街の記憶を残しつつ、ローコストでコンバージョンする。




■屋根ダイアグラム

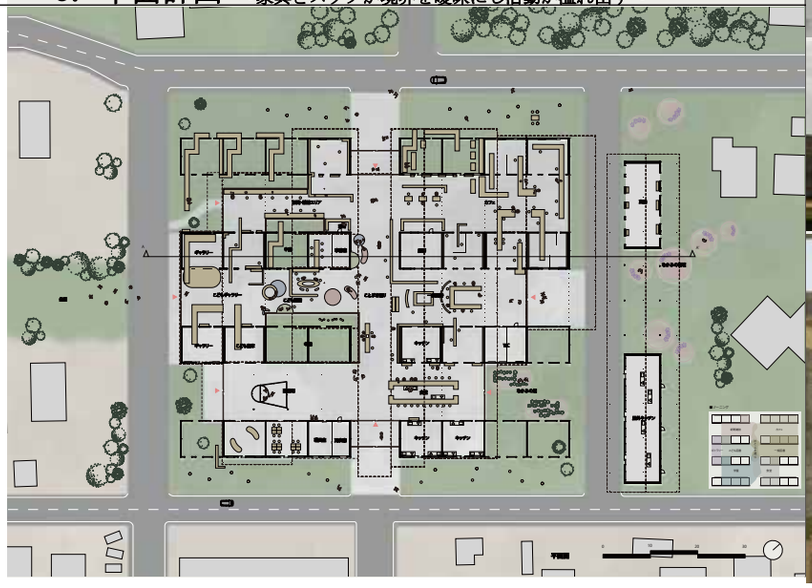



従来のブロック壁の横軸の配置

横軸を残したまま帯状の縦軸の屋根を加える

ブロック壁のグリットと屋根のグリットが
混ざり新たな間が生まれる

## 3. 平面計画 ～家具とスラブが境界を曖昧にし活動が溢れ出す～

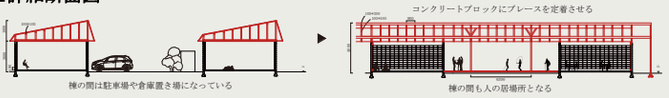


## 4. 断面計画 ～高低差が生むリズムと変化～

■屋根ダイアグラム

■断面図

■詳細断面図




棟の間は駐車場や倉庫置き場になっている

棟の間も人の居場所となる

## 5. カンピラ内で様々な活動が行われる